

## 2015年の日本ねじ産業を振り返る

日本ねじ工業協会  
専務理事 大磯義和

はじめに

現下の日本のねじ産業は、自動車をはじめとするねじの需要家の動向に左右されて厳しい局面に立たされている。世界経済の不透明さから我が国では設備投資の抑制が見られ、景気の冷え込みが心配である。特に、我が国経済の景気を左右する個人消費にあっては、先行きの不安から貯蓄優先となって芳しくない状態が続いている。本稿は、このような状況下での2015年における我が国ねじ産業を振り返ってみる。

### 1. ねじの需要家の動向

日本のねじ生産に大きな影響を及ぼす自動車産業は、図1のとおり直近の5年間で生産金額を伸ばしているものの、生産台数の減少が見られる。これは、国内生産から海外生産へのシフトが大きく影響していると見ることができる。2015年の四輪車の国内生産台数は対前年比94.9%の927万台で、国内販売が対前年比90.7%の504万台に対して輸出が対前年比102.5%の457万台となっている。この統計から判断すると、日本の内需が減少していると見て取れる。これに対して、日本の自動車メーカーが海外で生産する四輪車が1800万台もあり、対前年比103.5%と増加しているのである。

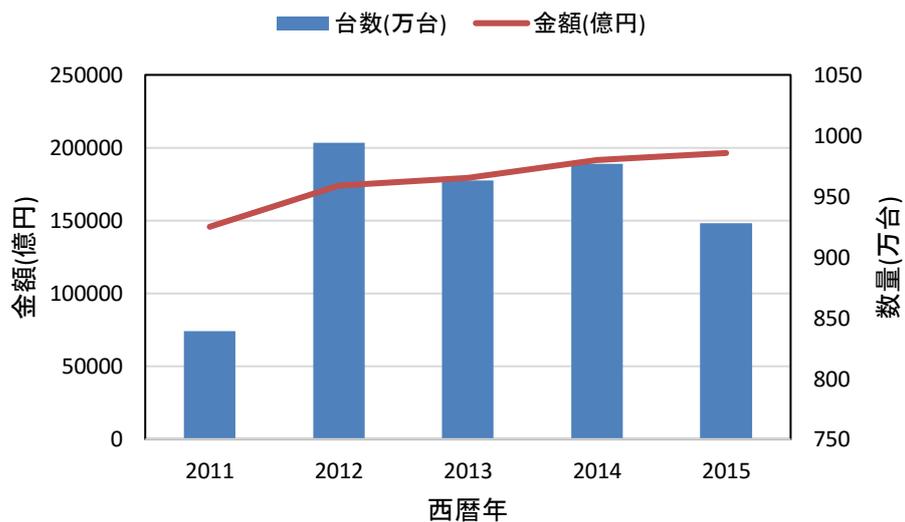


図1ー四輪自動車の生産推移(生産動態統計)

次に、民生用の電子デバイス・情報通信機器などの電子機械器具、テレビ・洗濯機・エア

一コンディショナーなどの電気機械器具及びマザーマシンと言われる金属工作機械産業を見てみると、図2のとおり大きな変化が表れているのが分かる。電子器具の激減は、韓国、台湾、中国などとの競争に日本が苦戦した結果であり、電気器具も新興国との競争で安泰ではないと見ている。工作機械は、輸出の伸びに助けられて増加したが、内需の設備投資が進まず先行きは厳しいと見ている。

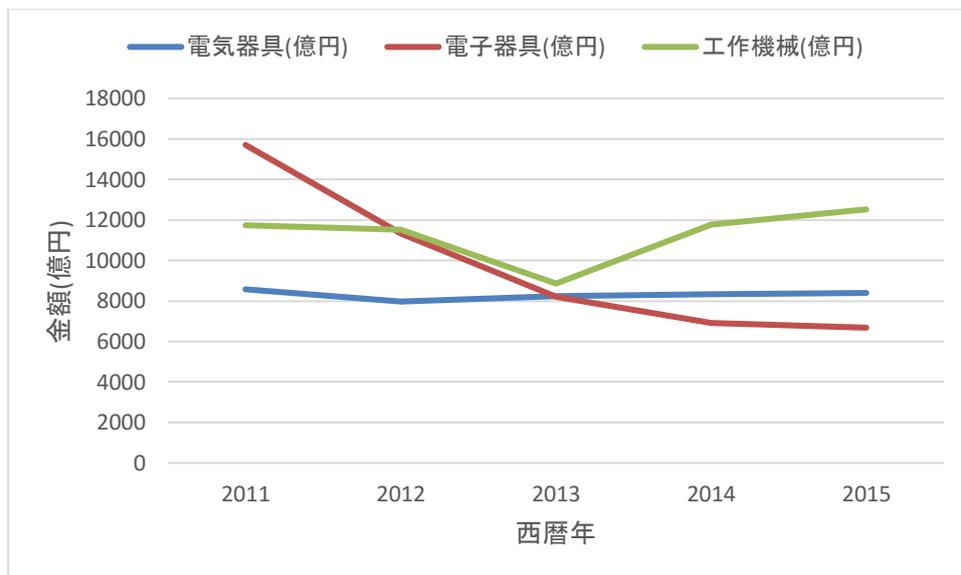


図2—電気・電子・工作機械の生産推移(生産動態統計)

## 2. ねじの生産・輸出・輸入の推移

日本のねじ産業にとって2015年の状況は、芳しくない結果であった。図3のとおり生産は、対前年比で数量が1.6%の減少の289万トン、金額が1.1%の減少の8348億円であり、図4のとおり輸出も対前年比で数量が4.2%減少の31.5万トン、金額で0.3%減少の2764億円という状況になった。これらは、ねじの需要家の動向を反映しているもので、これからも楽観できない状況が続くものと思われる。一方、輸入にあっては、図5のとおり対前年比で数量が6.2%減少の23.4万トンであったにもかかわらず、金額が2.8%増加の921億円となった。これは、円安の為替相場の影響が大きく、価格が高止まりした結果ではないかとみている。今後も為替相場が乱高下するようなことだと、輸出入に悪影響を与えかねないのではないかと心配している。

いずれにしても、為替相場の変動は、世界経済が安定しないことにはどうにもならないことだけは確かである。

## 3. 製造業の先行き

経済産業省が公表している資料から、日本の製造業の足元の状況認識を概観してみる。

我が国製造業の業績は、図6のとおり改善してきている。また、2015年度は前年度と比較して、企業規模にかかわらず従業員への利益還元を実施している企業が増加してい

る。設備投資は2015年に入って以降、図7のとおり中小企業においても回復しているとの分析を示している。

ところが、ねじ業界に携わっている筆者としては、会員からの声を聴いていると、この認識は実態と随分かけ離れているのではないかと思える。

今後の方向性は、付加価値が“モノ”そのものから、“サービス”“ソリューション”へと移り、単に“モノ”を作るだけでは生き残れない時代になるので、経営改革を進めつつ、第4次産業革命への対応も含め、①生産性の向上②新たな付加価値の創出を今までにも増して追求していく必要があるとまとめている。

この方向は、ねじ業界とっても当てはまる課題であろう。生産性の向上は、設備投資、人材育成、研究開発、事業再編を通じて成し遂げられるものであって、地道な活動の継続が求められる。その結果、生産性が向上し、コスト競争力が付いてくるのである。新たな付加価値の創出は、モノや情報がインターネットを通じて繋がる第4次産業革命に取り組む環境の中から生まれてくると思える。

おわりに

世界経済の動向に翻弄されるねじ業界であるが、産業構造がいくら変化してもねじの需要はなくなるので、信頼性のある日本のねじ製品を適正価格での供給に努めていきたい。2015年の産業動向を概観して筆者が感じることは、暫く我慢していれば良い方向に向かうであろうとの楽観的な見方、“何とかなるさ”の気持ちをもっていたいと思うのではあるが、2016年4月に日本の熊本県地方で発生した大地震による生産活動への悪影響もあり、日本経済の先行きは混沌とした状況が今しばらく続きそうな雲行きである。

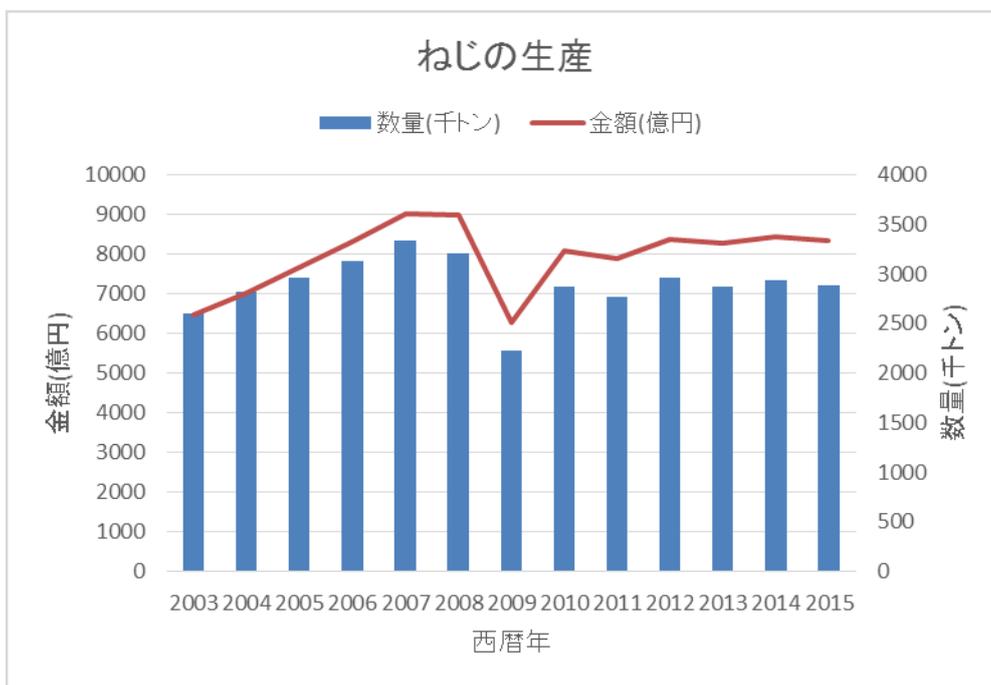


図 3-ねじの生産(当協会の推計)

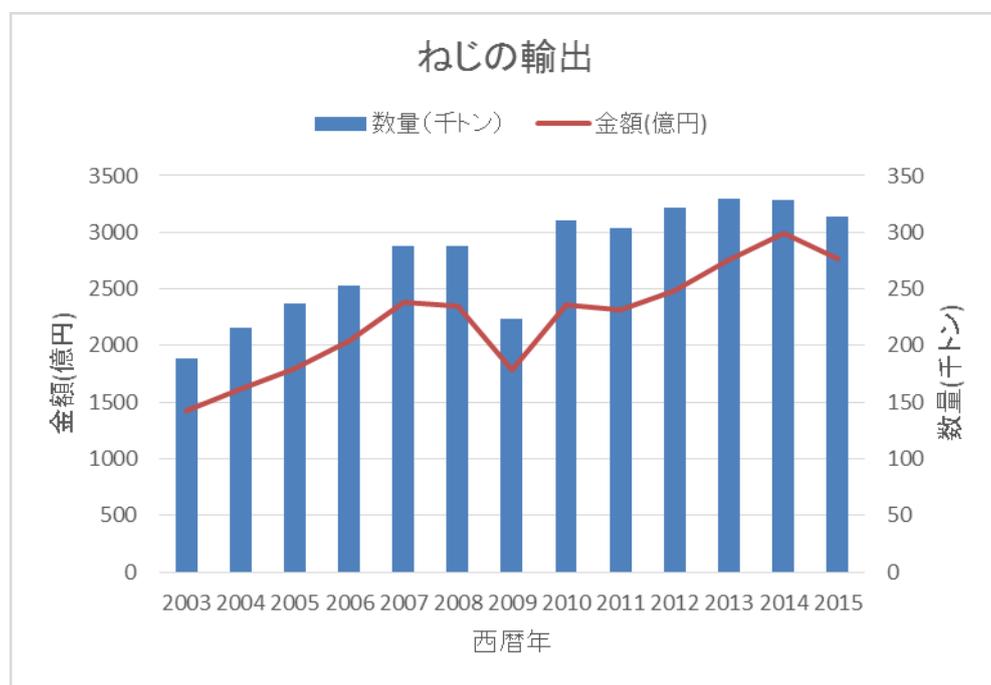


図 4-ねじの輸出(財務省貿易統計)

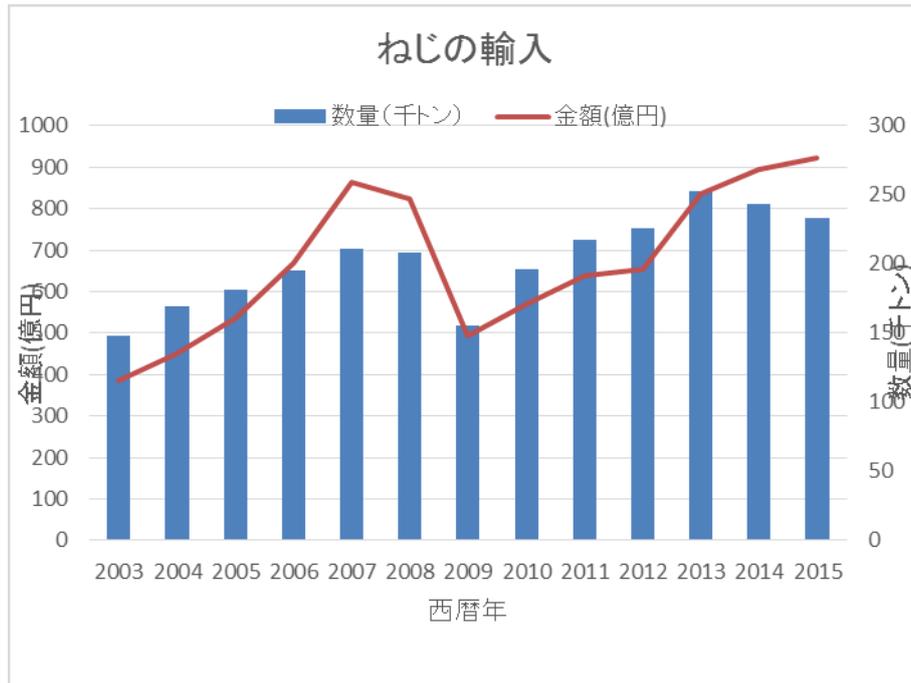
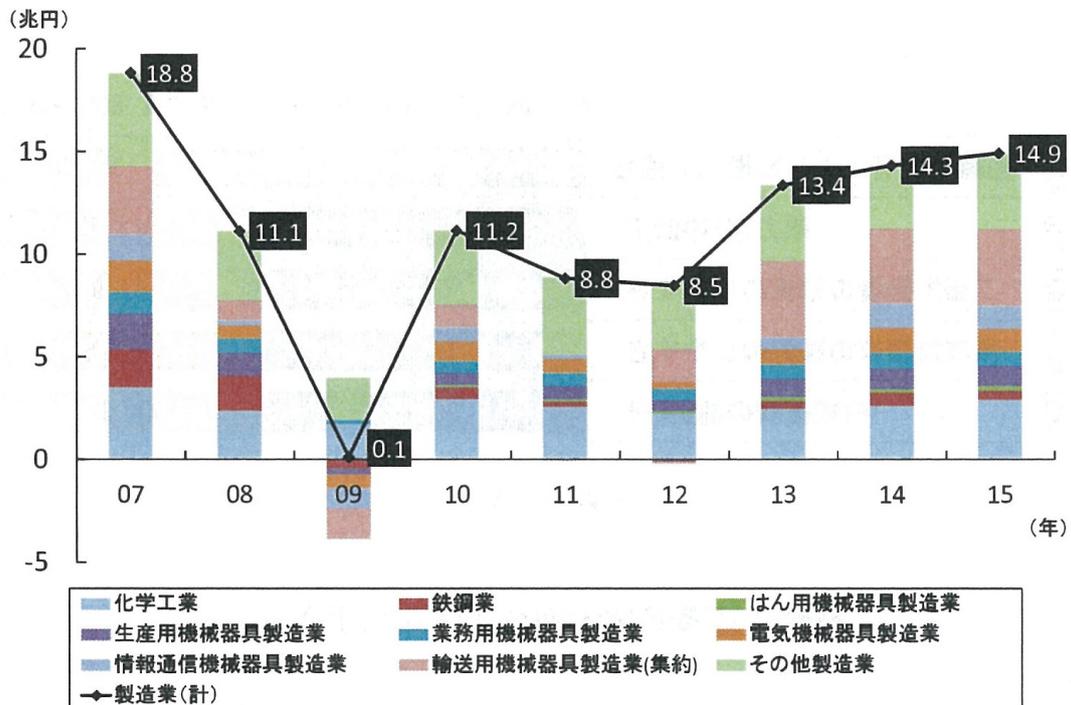


図 5-ねじの輸入(財務省貿易統計)

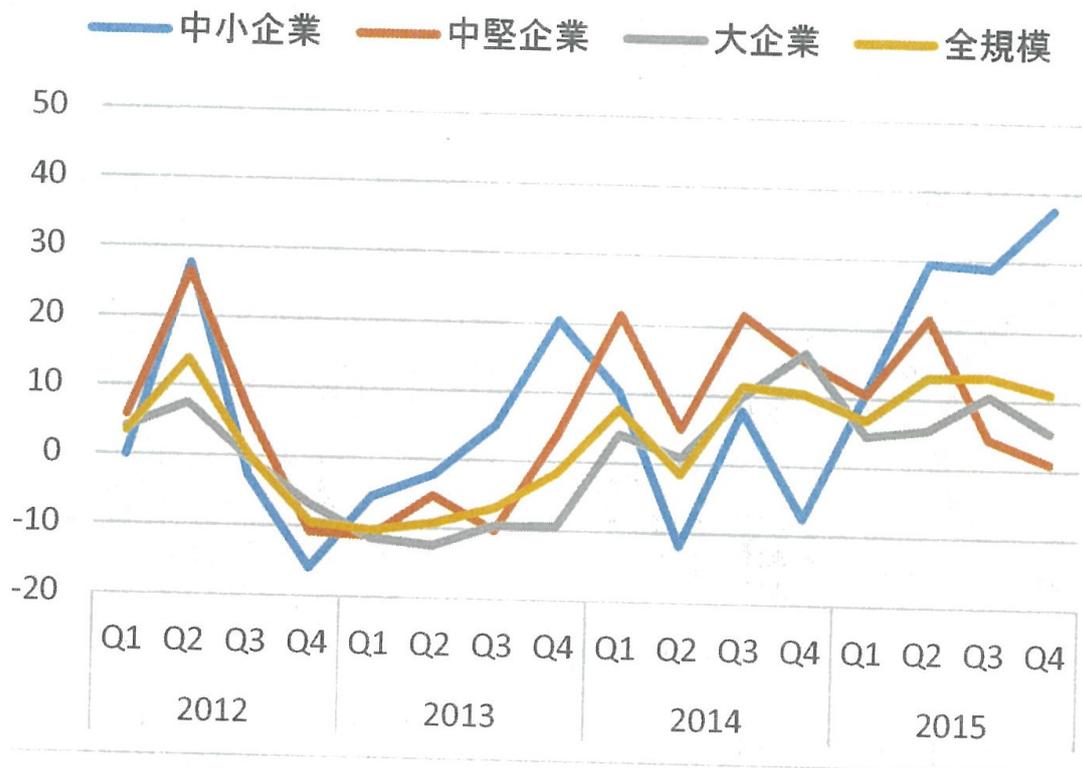
### 【企業業績の推移(営業利益)】



資料:財務省「法人企業統計」

備考:金融業、保険業以外の業種。資本金1億円以上

図 6-企業業績の推移(経済産業省公表資料)



資料: 法人企業統計

図 7-設備投資の伸び率(製造業、前年同期比)(経済産業省公表資料)